

何人と雖も人よりほめらるれば嬉しく、罵らるれば怒り、可笑ければ笑ひ、悲しきときは泣くは是れ世の常なれ共、これ等につきて余が經驗せしうち最もよく喜怒を遺憾なく表はすは繪畫に如くものなし、試みに一日畫架を構えて郊外に赴かんか、天は高く氣清く、萬象笑みを含んで生等を迎へん、この時の感想は如何ぞや、畫架に向ひ寫生を初む、人あり來りて之を觀る、偶々苦言を弄するを聞かば、如何に誰か怒氣心頭に發せざるものなけん、寫生成り携えて家に歸り、家人に之れを示し、美の微妙に感嘆し贊辭を呈すの時は轉た手の舞ひ足の踏む所を知らざるに至る。

余や幼より繪畫を好めども、筆を弄ぶの機なく、白駒は矢の如く去り、生を受けてより、星霜既に人生の半ばを過ぐ、偶々一小機會を得て、本年三月初めて繪筆を握り、公務の餘暇寸蔭を盗んで郊外に遊び、自然の靈妙を味ふ、日を経る毎に趣味の津津有味たるを覺ゆ。

畫成れば喜び、失敗に終れば嘆く、人あり欠點を指摘して批判を加ふるあれば、不知柳眉の動くを、之れに反して、稱讚するあれば快感極まりなし。

良師なくして研究上に不便なるは深く遺憾なり、八月水彩畫會の會友となり、毎月大下先生の批評を受くることを得たりこれ恰も暗夜に燈火を得たるの感ありき。

猶ほ且つ生等初學者をして長大息を催さしむるは肉筆の臨本なき此の一事なり、常に印刷物の不完全なるもののみ模寫して、色彩に於て構圖に於て常に不可解に終る。

今朝在仁川のSS氏より大下先生洋行中寫生せし肉筆を拜するを得たり、余の感想筆紙に盡し難し、直ちに借り來りて摸寫を初む、午后臨畫粗ぼなる、成功して快感并舞するや、失敗に歸して悲歎するかば、余の期して語る能はざる所なり。茲に駄辭を連れて諸氏の友情篤き指導を乞ふ

栗木君よ君はまだお若い(編者)

寫 生

筑後國 松 本 昇

(君未だかい)

さつき畫き上げてしまつた友がこゝ云つた、(すぐだよ)自分は答へながらスケツチ箱をずり上げて又筆を取る、も一暮に近い日がぬるく照らして居て、廣い野の彼方から、時時牛の鳴くのが長く聞えた。

報 告

宮崎洋畫研究會 宮崎にて 山 田 辰 之 助

僕は毎月新刊の『みつゑ』を手にする毎に彼の水彩畫研究所の舊

校舎で泰然として長髯を振りし昔を偲はれて今更恥かしく感ずると同時に又會員諸君より大に同情を寄せられしを感謝して居るのであるとして今は遠く四百里余を隔て、東天を眺め居るの境遇時々は二十六號を取り出して同窓諸君の當時の模様を思ひ返すのであるが一別以來は健全にて不及ながらも斯道の爲め一歩々々の發展を圖り以て諸先生始め同窓諸君に對し万分一の報恩に代へたしと祈り居る次第である。

駄語は叱言の出ぬ内に止めまして本會開催の模様を大畧紹介します

本會は去十月三十一日を以て生れたり所は九州宮崎縣宮崎町徳善寺(目拔場所)内にて門柱には「宮崎洋畫研究会第一回」との大札を粘附せられ目下會員十五名外に賛助會員名譽會員の方二十名許り其名譽會員は重に縣立中等學校の圖畫教師なり

此日は初會の事として準備まご／＼開會せしは午前十一時なりき場内には參考品に大下先生作六點、河合先生作一點、其他二點、會員作品四十點を陳列せらる(會員の出品は一名二葉以上とし毎月最終日曜に本會場に持寄り批評をなすの規程なり)

發會式終りて直に各出品畫に就き一々批評を加へて互に研究の參考資料となせり

今回の開催を聞き傳へて學生となく老翁となく遠近より多少趣味あるもの共續々縦覽を乞ひ來るものあり妨害ならざる限り之を許可せり(年二回臨時大會を開き一般公衆の縦覽を許す規程を設く)爲めに僅かに三四時間内に過ぎざるも確に美的趣味を

鼓吹せしこと少なからざるべしと信ず 午後五時閉會

京都支部

十一月七日午後一時より京都市裏寺町正覺寺に於て發會式を開く來會者五十有餘名會員名簿に各姓名を自署し終りて本會の規則を議了し夫より鹿子木孟郎氏の講話に次いで都鳥英喜寺松國太郎兩氏の會員の作品に對する懇切細密なる批評ありて四時半散會せり(支部委員)

彩管俱樂部展覽會報告

信州中野町にては細野順耳、古田後十郎、奈良儀虎等主催となり同好者を會し、日本水彩畫會研究所長野支部及飯山支部と氣脈を通じて、専ら水彩畫の研究を成すべく、彩管俱樂部なる者を組織し、其設立紀念として、十一月三日より三日間同地小學校内に於て水彩展覽會を開催せり。出品畫は大下、丸山、河合、大橋、松山、相田、赤城等各先生の作品を始め、東京本部の出品八十餘點、長野、飯山、兩支部及俱樂部員の作品二百數十點外に油畫圖案等を合せて、之れを五室に陳列して一般の縦覽に供せり。當地にては、洋畫之展覽會は實に創始に屬すれば、觀覽者頗る多く、何れも水彩畫の清新なる趣味に酔ひたらんが如くなりき。尙開會中、目下湯田中溫泉滯在中の丸山先生及飯山支部の森本先生も臨場せられ、其他水彩畫に筆を取る人々の來會するもの多く盛會を極めたり。尙閉會後、俱樂部員會に於て來年一月初旬を期し講師を聘して簡易なる講習會を開く事及、來年三四月頃第二回展覽會を開く事を決議せり。(彩管俱樂部)